

令和５年度 第１回「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：令和５年５月３１日（水）午後６時００分～

午後８時３０分

会場：すみだリバーサイドホール イベントホール

次第

- １ 開会
- ２ 区長あいさつ
- ３ 委員の委嘱及び任命について
- ４ 区長からの諮問について
- ５ 墨田区子ども・子育て会議の目的等について
- ６ 委員紹介
- ７ 会長及び副会長の互選
- ８ 議題
 - (１) 昨年度答申に対する区の実施、対応方針について
 - (２) 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査の実施について
 - (３) （仮称）すみだ子ども・子育て応援プログラムの策定について
 - (４) 部会の設置について
 - ア 部会長及び副部会長の選出
 - イ 意見交換
 - (５) 部会の報告について
- ９ 事務連絡
 - (１) 令和５年度子育て支援活動助成事業について
 - (２) 次回開催予定
- １０ 閉会

配布資料

資料１ 墨田区子ども・子育て会議の目的について

資料 2	墨田区子ども・子育て会議委員名簿（部会名簿）
資料 3	墨田区子ども・子育て支援総合計画（令和 2 年度～令和 6 年度）
資料 4	墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書（平成 3 1 年 3 月）
資料 5	昨年度答申（抜粋）
資料 6	令和 5 年度墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査（アンケート調査）について
資料 7	「(仮称) すみだ子ども・子育て応援プログラム」策定の考え方について
資料 8	令和 4 年度子育て支援活動助成事業募集チラシ

出席者（敬称略）

○委員

西村 孝幸（小梅保育園長）
西島 由美（にしじま小児科院長）
野原 健治（社会福祉法人興望館理事長）
浅見 佳子（相模女子大学准教授）
古屋 真（駒沢女子短期大学准教授）
八重田 裕一郎（墨田児童会館館長）
星野 操（文花子育てひろば施設長）
土屋 恵子（主任児童委員）
平林 秀敏（墨田中学校PTA会長）
尾口 優子（青少年委員協議会委員）
山口 仁美（両中地区青少年育成委員会委員長）
徳原 広美（株式会社コーリン堀川取締役保育事業担当）
賀川 祐二（NPO法人病児保育を作る会代表理事）
高田 宏美（キャリア保育園東向島施設長）
真鍋 文朗（区民公募委員）
三井田 香奈（区民公募委員）
本谷 友実（区民公募委員）
横山 竜也（区民公募委員）
河原 宏子（緑幼稚園長）
藤村 雅彦（柳島小学校長）
佐藤 順一（吾嬭立花中学校長）
国分 幸美（太平保育園長）

<欠席委員>

東 百代（本所白百合幼稚園長）
末田 豪（立花吾嬭の森小学校PTA会長）
眞能 貴代（区民公募委員）

<傍聴者>

1名

○事務局出席者

酒井 敏春（子ども・子育て支援部長）、宮本 知幸（教育委員会事務局次長）、石岡 克己（子育て支援課長）、秋山 和栄（子育て政策課長）、細谷 勇治（子ども施設課長）、坂田 勝彦（子育て支援総合センター館長）、梅原 和恵（副参事（子ども・家庭支援連携担当））、石坂 泰（指導室長）、大八木 努（地域教育支援課長）

議事概要

1 開会

2 区長あいさつ

3 委員の委嘱及び任命について

4 区長からの諮問について

- ・前期会長の小梅保育園の西村委員に代表して、区長より諮問書を手交。

5 墨田区子ども・子育て会議の目的等について

6 委員紹介

7 会長及び副会長の互選

- ・会長に西村委員（小梅保育園長）、副会長に西島委員（にしじま小児科院長）を推薦し決定（一同異議なし）。

8 議題

(1) 昨年度答申に対する区の実施、対応方針について

事務局	（資料について基づいて説明）
西村会長	前期も会議に参加させていただいていたが、委員の皆さんが熱心に議論されたことを取りまとめて答申として出させていただいた。それを区にしっかり受け止めていただき、着実に施策に反映されたことかと思う。

(2) 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査の実施について

事務局	（資料について基づいて説明） 意見・ご質問等がありましたら、「御意見用紙」に記入し、6月12日までに事務局へご提出ください。
委員	・ニーズ調査は非常に重要である。 ・前回のことがわかっていないが、対象者はどのように選ばれるのか。 ・配布数を増やす目的は、回収数を上げるということかと思う。DXの話もあったので、紙で配布してwebで回答するだけでなく、アプリを活用してニーズを把握するなどの方法で更に回収率が上がると思う。
事務局	・対象者の抽出は、住民基本台帳からの無作為抽出としている。前回調査との比較のため、対象は同じとしている。

	・回収数の向上という点では、教育委員会と検討中であり、小学生・中学生が一人1台タブレットを持っているので、それを活用して子どもの意見を反映していく。
委員	・親世代は、違うアプローチもあると思うので、アプリを活用するなどぜひご検討をお願いしたい。
委員	・小学生の回答があるが、保護者の目があると、答えづらいこともあると思う。小学生が直接回答した方が本音が出ると思う。
事務局	・今年度のニーズ調査については、社会情勢の動きを勘案しながら前回との比較を把握するため、この対象者としている。 ・これからは、子ども基本法に基づき、子どもの意見聴取をしていかなければいけないと思っている。この会議でみなさまからご意見をいただき、来年度に子どもの意見聴取をしていきたい。 ・何年生を対象にするのかなども、ここで意見をいただきたい。
委員	・こどもまんなか社会をつくるということで、そういったことのキャンペーンが大事だと思う。 ・アンケートを通じて周知し、回答者に知ってもらうことも大事である。
西村会長	・その他、意見・ご質問等がありましたら、「御意見用紙」に記入し、6月12日までに事務局へご提出ください。 ・5年前と今では、子どもを取り巻く環境は変わってきていると思う。保護者の働き方も変わってきていると思うので、ニーズ調査を役立てて次の計画に活かしていきたい。

(3) (仮称) すみだ子ども・子育て応援プログラムの策定について

事務局	(資料について基づいて説明)
西島副会長	・今まで子育て支援に関して、保育士数が少ない、学校の先生の補助が少ないなど課題があったかと思うが、応援プログラムは、それ以外の全く新しいことを考えるという意味なのか。
事務局	・現在の山積している課題に加え、今現在の子ども子育てに関する様々な施策・事業がある。最終的に、それらを次期総合計画に体系付けてたいと考えている。 ・この応援プログラムは、総合計画策定の前に、今年度に区が新たに取り組む施策や目玉となる施策、加速化・強化する施策などを取りまとめるという位置づけで考えていただければと思う。
西村会長	・本日はあくまで考え方であるため、具体案が出てこないと分かりにくいところもあるかと思うが、最終的には総合計画の中に網羅的に整理していく、その前段階として、新しく課題として出てきているものを中心に特出ししていくということでご承知おきいただければと思う。 ・こちらにつきましても、ご意見・ご質問等がありましたら、「御意見用紙」に記入し、6月12日までに事務局へご提出ください。

(4) 部会の設置について

西村会長	・冒頭、事務局から説明があったとおり、本会議では、2年間をかけて、子ども・子育て支援総合計画の策定に向けて議論を行っていくことになるが、子ども・子育て支援に関するテーマは多岐に渡っており、また、各委員の皆様も、子どもや子育て支援に携わる立場ですが、関わり方は人それぞれに異なっているかと思う。 ・そこで、会議での議論をより深く活発に行うために部会を設置したい。
------	---

以降、「乳幼児部会」「学齢部会」に分かれて意見交換

(5) 部会の報告について

西村会長 (乳幼児部会長)	・みなさまから具体的かつ切実であり、建設的なご意見をたくさんいただいた。 ・在宅子育て支援の重要性のお話が出された。例えば、上の子がいて、下の子を出産するときに利用できるものがあまりない。そうすると、3人目を考えるのは難しいということ。 ・訪問支援では、経済的な部分も大事という話があった。必要とされている養育が難しいのは経済的な事情がリンクしている。保護者自身がコミュニケーションをとることが難しい方もいる。また、そのような方々をサポートする担い手の不足も課題であり、担い手になってくれる方を増やしていくことも必要である。 ・就学に向けては、学童保育の不足の不安、コロナ禍での保護者同士のつながり希薄化、急な一時預かりは難しいなど、本当に必要なところに手が届いていない。 ・公園を様々な保育園が利用しているが、複数の保育園が同じ公園を利用している状況もあるため、公園以外にも安心して利用できる場が必要。 ・個別的支援が必要な子が増えている一方、施設は人員的に厳しい。障害があるが特別支援学級の要件には満たずに入れない、そうすると負担が全く変わってくる状況もある。 ・施設側の意見では、幼稚園も保育園も全体として空きが出てきている状況。幼児教育の質を担保するためにそれぞれの役割がある。 ・昔とは家族構成が大きく変わってきている中、両親が手伝ってくれない人をどう支援していくのかという意見もあった。 ・区が持つ資源が、前のニーズから変わってきている。ニーズと資源の再構築が、コロナ禍を経て新しい社会の中で求められている。そのような議論を経てその土台をもとに区の施策につなげていけるとよい。
八重田委員 (学齢部会長)	・不登校、居場所の確保、SSルームやサポート学級の設置など、学校の先生からお話をいただいた。また、学童クラブは、小中学校の空き教室を活用している。その学校との連携についての意見もいただいた。

	・発達障害や学習障害などの支援が必要な子の学びの場、居場所についても、放課後の大切な居場所として位置付けていく必要がある。 ・学童クラブでの格差として、それぞれの取組が違うことがある（おやつの問題など）。定員オーバーで入りたいけど入れない。サードプレイスとしての放課後子ども教室との連携も含めて考えていくことが必要ではないか。 ・学校での情報を地域にも下していただきたい。そうすることで関係団体等で地域の見守り強化や解決にもつながる。 ・放課後子ども教室では、隅田小学校が開設されたということで、その経緯の質問も出されたが、今後担い手をどうしていくかということも含めて放課後の健全育成の場を地域に増やしていく必要性がある。 ・子どもの貧困やヤングケアラーの話も出された。子どもが小さいころから手伝いなどしていると、本人にとっては普通と感ずることがある。子どもへの援助金が出ているが、子どもに使われない家庭もあり、給食費などで子どもに直接支援が届く仕組みが必要である。 ・社会的養護は、身近な問題となっている。乳幼児期から成人になるまでどのように支援していくか、切れ目ない支援が必要である。子どもにとっては自由な場は居場所として求められる一方で、多種多様な居場所が必要。 ・こどもまんなか社会の実現に向けて、子どもだけではなく親視点の施策、区民視点でのこどもまんなか社会も盛り込んでいくと良い。 ・アンケートは、学校連絡・情報共有サービス COCOO（コクー）を活用すると、こどもの声を聴取する際に活用できる。 ・こどもまんなか社会に向けて、子ども・学校・地域でどのようなことを進めていくのか、どこに焦点を絞って議論できるかを検討していきたい。
事務局	・みなさまの切実な思いも含め、お聞きした。 ・日頃、子どもや保護者への支援を考えているが、ニーズ調査や委員のみなさまの切実な思いをお聞きすると、今あるサービスを少し拡充すると手が届くなど、時代の変化に合わせて新しいサービスがあると子どもや保護者の思いに込えられるのではないかと感じたところである。 ・委員の皆様からのご意見を聞き、ニーズ調査や子どもの意見聴取を通して、子どもの気持ちに込えられるサービスの提供・拡充に取り組んでいく必要性を改めて感じた。 ・区としての施策のほか、民間の子育て団体への支援も含め、色々な形での対応があるかと思うので、様々なご意見を伺って、子ども・子育て応援プログラムや新しい総合計画に反映させていきたい。
事務局	・多岐にわたってのご意見をいただいた。昨年もこの部会に入って思ったことは、色々な立場や団体の連携が必要と感じた。 ・学校は教員が中心となり、そこから福祉につながるのがスムーズにいかないことがある。ワンストップでできることが一番求められているかと思う。

	・校長会を毎月1回やっているが、昨年の秋には福祉と子育てを交えた研修会を行った中で、どのようなつながりが作れるか検討した。学校だけで完結できることはなかなか難しい。家庭にどうアプローチできるかなど、施策に反映できるものは進めていきたい。 ・COCOO（コクー）の活用については、集計も含めて考えさせていきたい。細かいアンケートはこれまでやったことないため、どこまでできるかは検討させていただきたい。
--	--

9 事務連絡

10 閉会

以上